

学年・教科： 4年・国語

単元名： 「 どんぐりつね 」

時	内容	活動	成果・子ども達の姿	備考
1	つかみ	(めあて) ○物語全体のあらすじをつかむ ○1～6 場面に分ける	一つの物語を読み、個人それぞれが受ける思いや感想が異なることを感想を発表することで、気づくことができた。なぜその考えに至ったのかについて、理由を基に話し合いを行う。	ひとりぼっちの小ぎつねから、どのような第一印象をうけるかという点において、意見を聞くことができた。(寂しい、小さい、かわいそう等)かわいそうだ、という感想が多い中、いたずらばかりしていたので、最後に撃たれたことは、自業自得だという意見があり、一人一人の感じ方の違いに気が付いていた。
2	みつける	(めあて) ○2～4 場面のごんの行動と気持ちを叙述から見つける。 ○グループで気持ち曲線グラフをつくる。	グループで、話し合いをし、一つの気持ちグラフを仕上げる。お互いに意見を出し合い、教科書の中に根拠を見つけながら、ごんの兵十に対しての気持ちの変化の上がり下がりになんが気が付くことができた。友達の意見をしっかりと聞き、自分なりに理解しようとしている。	グループ活動の中で、場面ごとにごんの気持ちを整理をし、その時々の方持ちの移り変わりをグラフにまとめることができていた。できれば、もう少し時間を取り、各グループの発表を共有できる時間をしっかりとつべきであった。  自分と同じという同情➡悪いことをしてしまったというつづない➡自分の存在に気づいてほしい
3	よく考える	(めあて) ○5, 6 場面 (山場) について深く考え、意見を交流しあう。	どこが山場かという質問から、なぜそこを山場と考えるかという理由にまで広がりを見せ、意見の対立がおきた。相手を納得させるためには、しっかりとした教科書の中の根拠からの説明が必要かということに気づいたようである。	物語の山場について、①ごんが撃たれた場面、②最後にごんがうなずいた場面、かの対立でそれぞれの意見を発表しあい、とても面白い話し合いとなった。正解を導きだすには、今まで伏線が解決するところが山場であることを教師から示した。そのことから、②が正解であると気づく。
4	伝える	(めあて) ○6 場面で、ごんに問いかけた兵十の気持ちを叙述に基づいて考え、伝える。	最終場面の挿絵 (ごんを撃った後の兵十の足元しか描かれていない) から、兵十の今の気持ちを深く考えることができていた。今後の兵十の行動にまで、想像を膨らませ、意見交換を楽しんでいた。	何が正解ということは示さずに、それぞれの感じ方やその後の出来事を自由に想像することで一人一人が「どんぐりつね」という物語を楽しんでいたと思う。「お墓をつくった」「村人に悪いキツネでなかったことを伝えていった」等、想像もつかない意見がでて、子どもの想像力の広さに驚かされた。

伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など

物語の読み取りの中で、グループ活動を所々に組み入れることで、個々それぞれの感じ方や考えの違いに自然に気付くことが出来ていたと思う。友達との対話の中で、「何も考えない、感じられない、わからない。」ということは許されず、しっかりと教科書の叙述をみつけて、自分なりに考えるという必要性に迫られていたようだ。また、物語の最後 (兵十の今後の行動) を想像することは楽しい活動であり、クラスの中で「えー」「へえ。」「おもしろいね。」等といった声が自然にでてしまうという良い雰囲気が生まれたと思う。

所感

短い授業時間内での読み取りであったが、子ども達はそれぞれの想像力を働かせ自由に意見を交換していた。自分の意見を述べ、友人の意見を聞くことから、互いの考えの違いに気づき、より自分の読みを深めていくことが出来ていたと感じる。日本語力の違いは、想像力や感じ方の違いに現れるものではないが、自分の思いや考えをグループ活動の中で正確に伝えられるか、という点においては、顕著に差がみられていた。それ故、自分の考えを一度ノートに書いてから、グループ活動をする流れにする等の教師の働きかけが必要であると感じた。